



「浦和のさかえに 歴史をほこる」これまでの150年、これからの50年

大いちょう

令和 4年 1月 7日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和3年度 No. 9 048 (829) 2737

迷った時は攻めよう

校長 永山 誉

新年明けましておめでとうございます。

関東地方は、穏やかな天候での年明けとなりました。「寅」の年のスタートに当たり、今年も子どもたちにとって、また保護者の皆様、地域の皆様にとって実り多き一年となりますようお祈り申し上げます。

さて、皆様はこのお正月をどのように過ごされましたでしょうか。お正月といいますと、毎年恒例の箱根駅伝の中継にくぎ付けになった方も多かったのではないのでしょうか。箱根駅伝に関しましては、毎年生まれるドラマに感動するとともに、何か今年一年への活力をもらえるような気がします。今年の箱根駅伝は、青山学院大学の往路・復路・総合を制する完全優勝で幕を閉じましたが、大会後のある情報番組での、原監督の選手を育てる言葉に、青山学院大学の強さの秘密を感じました。それは、「迷ったら攻めろ」という言葉です。原監督は、選手の自主性を重んじ、自律、自分を律する力を大切にしています。普段から、自分で考え、判断し、行動できるよう練習を重ねていますが、レース中は、これまでの練習を振り返りながら自分の頭で考え、判断しなくてはなりません。どのようにするか迷った時には、攻めることを選択するという事。このような姿勢は、子どもたちにとっても、困難に立ち向かう時の姿勢として大切になってくるのではないのでしょうか。もちろん、迷ったら攻めるためには、それなりの準備をしっかりとすることが前提となります。準備をしていないのに、攻めるのは、それはただの無謀でしかありません。しっかりとした準備や練習に基づいた判断が大切になるのだと思います。また、原監督は、そのような姿勢で攻めた結果、たとえ失敗しても怒らないことが大切とも言っています。これは、我々大人が子どもたちに対する姿勢としても大切になってくることだと感じます。自分の判断で攻めたことを褒め、失敗の原因を共に考え励ますことで、子どもは、伸び伸びと育っていくのでしょうか。「論語」の中に、次のような章句があります。

しのたま

子曰わく、

くんし これ おのれ もと しょうじん これ ひと もと

「君子は諸を己に求む。小人は諸を人に求む。」

これは、「君子は、自分を反省して過ちがあれば、まずその原因を自分に求めるが、小人は人に求める。」と孔子が言ったものです。人は、たとえ日常の些細なことでも、失敗や間違いは認めたくない、或いはできれば人に知られたくないと思うものです。そして、知らず知らず心の中で言い訳を考えている自分に気付くことがあります。自分の行いにも、その結果にも責任を持てるようになるためには、失敗しても怒らない、或いは叱らないという大人の姿勢にもかかっているのかもしれない。大切なことは、失敗や間違いを分析しようとする精神を育てることが、次につながるのでしょうか。

準備をしっかりと、それでも迷った時は攻めるということ、そして、その結果、たとえ失敗したとしても我々大人は怒らず、叱らず、認め励ますということ。今年は、このことを心に留めながら子どもたちに接していきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の拡大傾向が再び見える中での3学期のスタートとなりました。3学期もこれまでと同様に新型コロナウイルス感染症対策を講じながら教育活動の充実に努めてまいります。3学期もどうぞよろしく願いいたします。